

親子でいただいた園からの贈り物

そらのくみ　☺☺　☺☺

我が家は長女☺☺☺と次女☺☺☺が年子で、長女が年中の時からむらさき幼稚園にお世話になり、三年間のご縁となりました。

コロナ禍が落ち着き始めた頃、私たちは引っ越しました。親子四人で暮らしていましたが、夫の母と私の父がそれぞれケアの必要な状況になったため、みんなで暮らすことを決めたのです。ちょうどその翌月が☺☺☺の入園時期。しかし引っ越しと入園が重なることに不安を覚え、まずは落ち着いて幼稚園を選び、翌年に二人同時に入園させることにしました。

園選びでは「子どもが思いきり体を動かして遊べること」、そして「神仏に手を合わせる機会があること」を大事にしました。この二点に合致していたのがむらさき幼稚園です。ただ、自宅からやや距離があり、最寄りの園と迷っていました。入園面接の際、私が介護の事情から急なお迎えに対応できないかもしれないと伝えると、光信先生は「できるだけ配慮します。ここでは子どもに、これからの社会を生き抜く力が身につきます。お母さんは子どもの将来を考えて決めてください」と声をかけてくださいました。その言葉に背中を押され、むらさき幼稚園にお願いすることを決めました。

☺☺☺は公園でも知らない子に「いっしょにあそぼ」と声をかける積極的なタイプ。入園式の日から友達を作り、遊ぶ約束をして帰ってきました。一方☺☺☺は内弁慶で、初めてバスに乗る日は大泣きするのではと心配しましたが、姉の楽しそうな様子につられ、意外にもすんなりと乗り込んでいきました。

二人が園に慣れる頃には両親の体調も落ち着き、私も園に足を運ぶ余裕ができました。園で会う子どもたちは「だれのおかあさん？」「☺☺☺ちゃんはあそこにいるよ」「☺☺☺ちゃんのおかあさん、ダンゴムシみて」などと声をかけてくれます。我が子は私の姿を見ると「おかあさんとかえりたい！」と泣くこともありましたが、私は先生方にお任せして姿を消すことを覚えました。☺☺☺の年少の運動会では緊張から泣きながら競技に臨んだこと、☺☺☺の生活発表会で遊戯室に入れなかった☺☺☺が「おかあさんのところにいきたい」と大泣きしたこともありました。それも二年目を迎えるころには、私を見つけて抱きついてきても、その後は安心してまた遊びに戻るようになっていました。

☺☺☺は友達とのぶつかり合いや、思い通りに遊べない悔しさに涙することもありましたが、その都度先生方に甘え、不安を切り替えて楽しそうに過ごしていました。小学校入学当初は朝に涙を浮かべる日もありましたが、今では元気に通っています。☺☺☺は遊びとおやつ以外はマイペース。生活面では気になる点もありますが、友達に自分の気持ちをはっきり伝えられるようになりました。担任以外には甘えられなかったのが「［　　］、もうおくすりのんだの？」「［　　］、すべりだいしゅうごうね」などとお姉さん風を吹かせる独特の関わりを見せるようになりました。型にはめようとせず、子どもに合わせて温かく見守ってくださる先生方には、本当に感謝しています。

原稿を書いている今、☺☺☺は七歳の誕生日を迎えました。二人とも朝から「今日は☺☺☺の誕生日！」と話していたそうです。私は暑さでケーキのデコレーションが崩れて落ち込んでいましたが、ゆきのが背中をさすり「おかあさん、げんきだして。☺☺☺はこのケーキでもよろこんでくれるよ」と励ましてくれました。きっと☺☺☺もクラスで、こんなふうに友達を励ましたり励まされたりしているのだと思うと胸が熱くなりました。そして☺☺☺の誕生日を知ったお母さんから「母七年ご苦労さま！よう頑張った☆」と労いの言葉までいただき、また涙がこぼれました。

むらさき幼稚園は、子どもが生きる力を育む環境であると同時に、私にとっては保護者同士の温かいつながりをいただける場所でもありました。先生方、職員の皆さま、そして保護者の皆さま、本当にありがとうございます。残り半年も、どうぞよろしくお願いいたします。

